

業 種	自動車（バス）
取組分野	教育・訓練
テ ー マ	安全運行を行うために eラーニングを活用した教育の取組
取組の狙い	eラーニングシステムによる学習制度を構築し <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗務員が順守すべき安全に関する知識の習得</li> <li>・安全運行に対する全社員の意識向上</li> </ul> に努める。
具体的内容	<p><b>1. 背景</b></p> <p>貸切バス事業にとって定期的な乗務員教育は、運行の安全に対する取組として必要不可欠だが、乗務員は各個人ごとの勤務体系、不規則な勤務時間といった業務上の特性に加え、業務の繁閑が大きく慢性的な人手不足による長時間労働の傾向から、全乗務員を集合させる教育時間を確保することが困難である。</p> <p>「すみれ観光バス株式会社」（本社：埼玉県大里郡寄居町、車両台数9台）（以下、当社という）も上記の課題があり、集合教育を行うための無理なシフト調整、不参加者のために他の乗務員に休日の振替出勤を依頼する等の非効率、非生産な状況が続いていた。</p> <p>結果として「義務感」が先行して安全意識の向上が図られず、会社、乗務員双方の負担が大きくなる状況となっており、中小バス会社としては、教育の改革が急務であった。</p> <p><b>2. 取組</b></p> <p>当社は、中小バス会社支援事業を行っている「株式会社キャブステーション」（以下「キャブステーション」という。）の「貸切バス運行管理システム」を導入していたので、「キャブステーション」に安全教育について相談したところ、インターネットを活用した安全教育システム（eラーニングシステム）を手掛けていることを知り早速導入し、上記の問題の解消、解決を図る取組を2019年3月より開始した。</p> <p><b>（1）システムの特徴</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 乗務員にアカウントとパスワードを設定することで24時間いつでも学習が可能</li> <li>② パソコンに限らずスマートフォン、タブレットにて場所を選ばず学習が可能</li> <li>③ 個人の習熟度に応じて何度でも繰り返し学習が可能</li> <li>④ 理解度チェック方式のため、教育責任者が適宜、的確な指導を行うことが可能</li> <li>⑤ 受講状況を会社が把握し、未学習の乗務員に対しフォローを行うことが可能</li> <li>⑥ 国土交通省の指導指針に準拠した体系的な学習、かつ法令改正にも即時対応した学習が可能</li> <li>⑦ 定期的かつ継続的なオンライン配信のため、切れ目なく安全意識の確</li> </ol>

認を行うことが可能

- ⑧ 年間教育として全12講座が毎月1講座ずつ配信されるほか、理解度チェックテストの合否により修了証書が授与されたり、教材内容が毎年リニューアルされたりと、乗務員が学習に対するモチベーションを維持できるように配慮

### (2) 導入時の懸念

eラーニングシステムを導入する際にもっとも懸念したことは乗務員にパソコンを使った学習ができるのかということであったが、ドライブレコーダーの映像やイラスト、CG動画、音声案内を活用したヒヤリハット教材や危険予測訓練等、直感的に理解できる内容となっており、操作もマウスのみで行えるので高齢の乗務員でも十分に対応できるものとなっている。

### (3) 導入の成果

結果として、教本を使用しながら行っていた集合研修からeラーニングへ変更したことが乗務員の理解度と学習意欲の向上へつながっている。

また、事務所に専用のパソコンを一台設置し、乗務員のスケジュールに合わせた学習がいつでもできるように工夫をするとともに、受講中は教育責任者や他の乗務員とも闊達なコミュニケーションがとれるよう配慮をしている。

### 【ドライブレコーダーを活用したヒヤリハット教材】

ドラレコ映像を見てみましょう



## 【CG映像を使った危険予測訓練】



## 【理解度チェックテスト】

### 問題 4

次の「車内事故の防止」について述べた文章中の空欄を、下記の語群より適切な語句を選び、それを該当する空欄へドラッグして文章を完成させてください。（配点：各5）

「急」のつく運転に陥らないためには、を守り、無理なく停止、危険を回避できるようを確保して、発車、停車、加速時は、を行いましょう。

滑らかな加減速

視野

速やかな加減速

定速走行

法定速度

道路運送法

後方の安全確認

車間距離

## 【進捗状況の把握】

マイページ

受講中の科目 (1科目) : 最大5件まで表示 (2024/05/09)

教科名	科目名	ステータス	教科数	公開終了日
特別講座1	進行遅延防止のための、改善準備作業を正しく実施しよう。	6/5/24	1	-

未受講の科目 (23科目) : 最大10件まで表示 (2024/05/09)

教科名	科目名	ステータス	教科数	公開終了日
一般安全講座 2019年受講	安全講習1 バイパス運転時の心構え	6/5/24	1	-
一般安全講座 2019年受講	安全講習2 バスの運行の安全、緊急時の発生を確実にするための運転手...	6/5/24	1	-
一般安全講座 2019年受講	安全講習3 運転者チェックテスト	6/5/24	1	-
一般安全講座 2019年受講	安全講習4 バスの構造上の特徴	6/5/24	1	-
一般安全講座 2019年受講	安全講習5 運転者チェックテスト	6/5/24	1	-

進捗

完了した科目数 (2024/05/09)

3科目  
27/29科目

お問い合わせ

連絡先	タイトル

## 合格 80点 (最大:100)

これで **安全講座 1 1 理解度チェックテスト** は終了です。

このあとは次の講座に進むことができます。

おつかれさまでした。

戻る



解答状態

Q1 次の説明が正しいか誤りが判定してください。事故を回避するためには、今現在の状況から起こりえる危険性を予測して、常に周囲の健路…	誤 ×
Q2 次の説明が正しいか誤りが判定してください。雨天時にヘッドライトを点灯することで、自車の存在を他車に知らせる効果が期待できる。	正 ○
Q3 次の説明が正しいか誤りが判定してください。バスは追突事故の発生比率が高い。	正 ○
Q4 次の説明が正しいか誤りが判定してください。衝突被害軽減ブレーキが装着されたので、まったく安心して運転できるようになった。	誤 ×
Q5 次の説明が正しいか誤りが判定してください。高速道路を走行中は、一般道に比べ、空走距離と制動距離がともに長くなると考えておくべ…	正 ○
Q6 次の説明が正しいか誤りが判定してください。速度が速くなるほど動体視力は向上し、それとは逆に視距は狭くなる。	正 ○
Q7 次の説明が正しいか誤りが判定してください。雨天時は事故が頻発するだけでなく、事故が重大化しやすいので注意が必要だ。	正 ○
Q8 次の説明が正しいか誤りが判定してください。運転以外の考えごとをしながらぼんやり運転する「動静不注視」が追突事故の原因となる。	正 ○
Q9 次の説明が正しいか誤りが判定してください。制動距離は、速度だけでなく、路面の状態とタイヤの磨耗度にも影響を受ける。	正 ○
Q10 次の説明が正しいか誤りが判定してください。急な追い込みやウインカーを出さずに進路変更するなど、危険なマナーの悪い運転に対し、…	正 ○

### 3. 今後の目標

eラーニングは、安全教育以外の「接客・接遇・マナー講座」や全従業員対象の「労基法・改善基準告示のポイント」のカリキュラム等も用意されているため積極的に活用したいと考えている。

なお、ドライブレコーダーのヒヤリハット映像の他社とのデータ共有など、さらなるeラーニングシステムの活用方法があるため、「キャブステーション」に協力を仰ぎながら、安全教育に活用できるツールとしてさらに発展させていきたいと考えている。

また、令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症への予防対策として事業者の責任において三密回避が求められる中、集合・対面研修を行うことなく安全教育を遂行し、確実な事故防止ができていた点はeラーニングシステムに依るところが大きいと考えている。

これからの新しい教育の形として今後も継続的に活用していくことで、さらに一歩進んだ安全・安心について全社員一丸となって取り組んでいくこととしている。

(参考) キャブステーションドライバー安全教育 eラーニングシステム「グッドラーニング！」

<https://promote.good-learning.jp/>

QRコード



取組の効果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業務時間が異なる乗務員にとって時間や場所を選ばず学習できるeラーニングシステムは、継続的・定期的な安全教育に欠かせないツールとなっている。</li> <li>2. 個々の習熟度に合わせて繰り返し学習を行うことができるため、理解を確実にし、結果的に効率的かつ効果的な安全に対する知識の習得、安全意識の向上に繋がっている。</li> <li>3. 会社側がチェックテストで学習の理解度を具体的に把握でき、間違えた箇所に対して個別教育指導を行うことが可能となっている。</li> <li>4. 「自分で考えること」を目的とした学習スタイルのため、各乗務員が「安全」について考える機会となっている。</li> <li>5. また、教材内容に対する乗務員間のコミュニケーションが増え、日頃は独りでハンドルを握っていることが多い乗務員が、「安全」について語り合う良い機会となっており、結果として、社内全体のモチベーションの向上に繋がっている。</li> <li>6. 教材を通じて得た知識や乗務員間のコミュニケーションにより向上したモチベーションが、日々の安全運行につながり、デジタルタコグラフの運転実績を見ても法令を遵守した安全運行が確認でき、結果としてeラーニングの導入後、安全運転、法令遵守の意識が根付いてきている。</li> </ol>
	すみれ観光バス株式会社 安全管理部 (連絡先：048-581-7874)